

害虫編

注意が必要な害虫とは!?

マメ類(主にインゲン・エンドウ・ソラマメ)に共通して発生する害虫

①モザイク病を伝染するアブラムシ類

マメアブラムシ、ソラマメヒゲナガアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、エンドウヒゲナガアブラムシなどが3〜6月と9〜11月に発生します。アブラムシ類はモザイク病を伝染するので防除は欠かせません。飛来が多い時期には防虫ネットをかぶせることが重要で、育苗中や定植直後に「サンサンネット」などでトンネルがけします。また、畝面のシルバーポリマルチも効果的です。発生が見られた場合は、マメ類(未成熟)に登録のあるダントツ水溶性などを散布します。

②アザミウマ類は多発すると株の生育が衰える

ミナミキイロアザミウマ、ネギアザミウマ、ダイズウスイロアザミウマなどが5〜11月に発生します。成虫と幼虫が葉を食害し、葉が点々と白くカスリ状になります。発生が多

い場合には、葉全体が褐色となって株の生育が衰え、マメ莢の表面も褐色となり硬化します。発生が見られたら、マメ類(未成熟)に登録のあるデアアナSCなどを散布します。

③天敵に弱いハモグリバエ類

体長1〜2mmの黄色のウジムシが葉の中を食い進み、その痕が白い筋になるので、エカキムシとも呼ばれます。成虫は2mmの小さなハエで、ナモグリバエ、マメハモグリバエ、エンドウハモグリバエなどが発生します。寄生バチなど土着天敵がよく働くので、天敵に影響の少ない薬剤を選択して使用します。発生が多い場合は、マメ類(未成熟)に登録のあるアフアーム乳剤(サイインゲンはマメハモグリバエで登録)、デアアナSCなどを散布します。

④ハダニ類は梅雨明け後の大発生に注意

体長1mmほどで、赤色のカンザワハダニ、淡緑色のナミハダニが4〜11月に発生します。葉裏から吸汁するので、その部分が斑紋のように色が抜け、葉全体が白っぽくなったり、部分的に黄色くなったりします。発生が多くなると次第に株全体に広がり、褐変して枯死した被害葉が増加します。梅雨明け後に発生が多くな

ります。発生が多い場合は、マメ類(未成熟)に登録のあるコロマイト乳剤などを散布します。

⑤大量に卵を産みつけるヨトウムシ類

ハスモンヨトウとシロイチモジヨトウが8〜10月、ヨトウムシ(ヨトウガの幼虫)が5〜6月と10月ごろに発生します。成虫が卵を100〜200ほどの卵塊で産卵するため、幼虫は集団で葉を食害します。幼虫は大きくなると体長3〜4cmとなり、昼間は土の中に潜み、夜間に地上に現れて葉を暴食します。発生が見ら

れたら、ハスモンヨトウではマメ類(未成熟)に登録のあるデアアナSC、プレオフロアブルなどを散布します。

⑥莢の中に入ってマメを食害するウラナミシジミ

成虫は前翅長20mm、青紫色の蝶です。幼虫は大きくなると体長15mm、全体は長楕円形で横から見るとやや扁平です。体色は緑色。幼虫がマメ莢の中に食入し、マメを食害します。年6〜7回発生し、9〜11月に発生が多くあります。発生が多い場合には、アデオン乳剤、ベニカS乳剤などをていねいに散布します。



(木村 裕 原図)

(木村 裕 原図)

(木村 裕 原図)

(木村 裕 原図)

※文中で紹介している農薬は、タキイでは取り扱いのないものもございます。ご了承ください。また、農薬をご使用の際は必ず登録の有無や使用方法をご確認ください(編集部)。

インゲン、エンドウ、ソラマメは、酸性土壌や連作を嫌います。水はけのよい土壌に作付けましょう。春先は病害虫の発生が増加するので、早めの薬剤散布を心掛けます。

病害編

注意する病気と対策

インゲンマメ

① 激しい病徴では枯死する炭疽病

6～7月の降雨の多い時期に発生が増加します。葉や葉柄では、黒褐色で凹んだ条斑を生じ、葉は萎縮や奇形になり、激しい場合は枯死、脱落します。莢では周辺部が赤褐色、黒褐色で、内部が暗褐色の斑点を生じ、病斑の中央部に小黒点を形成し、鮮肉色の粘液物を生じます。

防除対策では、発病初期にトップジンM水和剤を散布します。

② かさ枯病はインゲンマメの要注意病害

6月ごろ、風雨の多い時期に発生が増えるインゲンマメの重要病害です。はじめ、葉に周縁部が黄緑色のかさをともなった赤色の小斑点を生じ、やがて赤褐色多角形で水浸状の病斑ができます。莢では、周辺部が赤褐色の濃緑色円形斑点を生じます。防除対策では、発病初期にZボルドーなどを散布します。

サヤエンドウ・実エンドウ

③ 多湿環境で大発生する灰色かび病

エンドウの咲き終わった花弁から感染し、莢に広がって腐敗します。葉や茎にも発生し、茎で発生するとその上部が萎凋し、枯死します。多湿条件で多発するので、ハウス栽培では換気して湿度を低く管理します。防除対策として、発生が多い場合には、セイビアーフロアブル20などを散布します。

④ 褐紋病は寒冷紗被覆時に発生することがある

4月以降の降雨の多い時期に発生が増加します。葉・茎・莢・種子に

ソラマメ

被害が発生し、葉でははじめ、黒褐色の小斑点ができ、やがて拡大して、周辺淡褐色中央部が黒紫色で輪紋のある病斑を生じます。莢では円形黒色の小型病斑を生じ、表面がそうか状でやや隆起しています。莢では、黒紫色・黒褐色、紡錘形の病斑が多

数生じ、激しい時は萎凋枯死します。発病初期にアミスター20フロアブル、トップジンM水和剤などを散布します。

⑤ 罹病植物の残さが発生源となる赤色斑点病

被害は5～6月ごろにかけて見られ、はじめ、葉、茎、莢に赤褐色で1～2mmの小斑点を生じ、やがて融

合して、濃い赤褐色で中央部が凹んだ病斑となります。莢では病斑が融合して、細長い病斑となり、葉でも大型病斑が生じます。

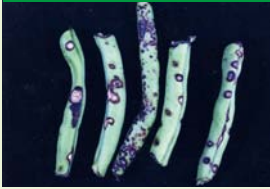
病原菌は灰色かび病菌で、防除薬剤としては発病初期にZボルドーを散布します。

⑥ 多発では防除が難しいさび病

4月ごろから葉にやや青みを帯びた白色小斑点が生じ、やがて盛り上がった褐色の病斑になる。表皮が破れると中から黄褐色の胞子が飛散します。病斑は下位葉から次第に上位葉に広がります。

防除対策として、発病初期にジマンダイセン水和剤を散布します。

インゲンの炭疽病 (莢の病徴)



インゲンのかさ枯病 (葉の病徴)



インゲンのかさ枯病 (葉の病徴)



エンドウの褐紋病 (株全体に発生)



エンドウの灰色かび病 (莢に発病)



(岡田 清嗣 原図)

ソラマメの赤色斑点病 (葉の病徴)



ソラマメの赤色斑点病 (莢に発生)



ソラマメのさび病 (葉の病徴)

